
キミに続く

深山 奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミに続く

【Nコード】

N9386X

【作者名】

深山 奏

【あらすじ】

現代 / 幼馴染 / 高校生 / 切ない / 全年齢OK / ほのぼの / BL ぎみ /

ある日、幼馴染から「自分は養子」だと打ち明けられ、二人で生みの親の家を訪ねる話です。

HPにてUPしています。

キミに続く #02

それつきり僕たちの間に会話はなくなった。僕は時々、思い出したように粉になったクッキーを指で摘んで口に運ぶ。その間、雪博は僕の隣ぼんやり景色を眺めているだけだった。

空は馬鹿みたいに晴れていて、風は嫌味なくらい気持ちがいい。なのに、なんでこいつは自分の家だと疑いもしなかった場所から追い出されようとしてるんだろう。

一両編成の年代物の電車が着いて、僕たちはそれに乗りこんだ。僕たち意外、誰も乗っていない。

雪博の表情が硬い。当たり前か。

「……こんなんで、会社、大丈夫か？」

「さあな」

雪博は向かい合わせになっている座席に深々と座りながら答える。僕は足がぶつからないように、雪博の斜め前に腰かけて、窓の外を見た。

「たぶんここから七つか、八つ先。 駅ってどこ。着いたら起こして」

雪博は壁に凭れると、腕を組んで目を瞑った。

寝るなんて言っても眠れないのは一目瞭然で、雪博の体は強張っていた。いつもなら僕もからかうんだけど……。

「分かった」

僕は答えて、ぜんぜん減らないクッキーの小袋にまた指をつっこんだ。

電車が動き出して、稲の刈り取られた枯れ草色の田園風景が続く。日本の原風景の見本みたいな。

このままどこか、ぜんぜん違う場所に行けたらいいのに。養子とか、進路とか、学校とか、何にも考えなくていつも笑っていられる場所に。

「次は 駅。 駅。」

聞きとらせないために言ってるのか思うほど不明瞭な案内放送が聞こえてきて、僕は雪博を見る。体の緊張はぜんぜん取れてない。

「次だつて」

僕は雪博の足を軽く蹴る。

「……何だ、もう着くのか。あゝあ、眠い……」

雪博はわざとらしく大あくびをして伸びをした。

駅は無人駅で、僕たちは手の中に残った切符をクシャリと丸めて駅前に捨てた。こんななら、一駅分の切符買えばよかった。けっこう高かったのに。

雪博が携帯の地図で場所を確認して、僕たちはそれを見ながら土の道を進んだ。途中で腰の曲がったおばあさんに会って、雪博の本当の親が住んでいるという家の詳しい場所を聞いた。

着いた先は、昭和初期、みたいな平屋。立派な門があつて、広い庭があつて、松の木が植わっていて、敷石が置いてある。玄関扉は引き戸で、チャイムのボタンも二世代前みたいな、黄ばんだボタン。

「……………」
雪博は玄関の前に立ったまま、チャイムを押すのをためらっていた。

僕は、そんな雪博の背中を黙って見つめていた。雪博が帰りたいたら、このまま帰ったっていい。

「なんか用かい？」

背中から変なアクセントで声をかけられ、僕たちは飛びあがった。「ウチになんか用かね？」

振り返ると、人のよさそうな顔をした小柄なおばあさんが立っていた。戦争映画に出てくるモンペみたいな格好で、履いてる長靴には泥がついていた。

「……………」

僕はなにを言えばいいのか分からず、雪博を見る。でも雪博も僕と同じように困っていた。まだ心の準備ができていないんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9386x/>

キミに続く

2011年10月26日05時13分発行